

第1 事業の目標

カブトガニは、大分県内では別府湾（主に守江湾）、周防灘のみに生息する、「生きた化石」として系統進化学上極めて重要な種である。しかしながら、近年は干潟や沿岸の埋め立て工事により生息域が狭められ個体数が減少しており、絶滅の恐れが大きいことから緊急に保護対策が必要とされている。

本事業は、モニタリング等により本種の生息状況等の把握を行い、その結果等を踏まえ、本種の生息に必要な環境の維持及び改善、本種の違法捕獲防止策の強化等を実施し、本種が自然状態で安定的に存続できる状態になることを目標とする。

第2 事業の区域

周防灘（中津市、宇佐市）、守江湾（杵築市）

第3 事業の内容

1 生息状況等の把握

（1）生息状況のモニタリング、調査等

本種の保護管理事業を適切かつ効果的に実施するため、個体数の増減の現状、繁殖状況等の生息状況をモニタリングするとともに、これらに関する情報の蓄積を行う。

また、①本種の生物学的特性の解明、②本種を取り巻く生態系の構造の解明並びに③個体群の維持に影響を及ぼすおそれのある要因及びその影響の現状把握に関する調査及び研究を進める。

（2）生息に適する環境の把握

本種が自然状態で安定して存続するためには、水質が良好な干潟が保たれること等が条件となる。さらに、本種を取り巻く生態系全体を良好な状態に保つことが必要である。

そのため、天敵を含む食物連鎖の相互関係並びに卵、幼体、成体の各時期における本種の生息に適した環境を特定するための調査の実施に努める。

2 生息地における生息環境の維持・改善

1 で得られた知見等に基づき、本種の生態学的特性を十分に考慮して、生息環境を維持及び改善するために必要かつ効果的な実施方法を検討し、もって本種の生息に適した環境の維持及び改善を図る。

また、1 の結果、生息状況や生息環境に憂慮すべき変化が見られた場合には、必要に応じ、原因解明のための調査の実施等本種の保存に資する対策を講ずる。

3 生息地における監視等

本種の違法捕獲及び外来生物の投入等を防止するため、生息地における巡視等を行う。

4 普及啓発の推進

本種の保護管理事業を実効あるものとするためには、関係地方公共団体並びに関係地域の住民及び漁業関係者を始めとする県民の理解と協力が不可欠である。このため、本種の保護の必要性、生息状況、保護管理事業の実施状況等に関する普及啓発を推進し、本種の保護のための配慮及び協力を呼び掛ける。また、関係地域において本種の保護についての理解を深めるための活動を行うこと等により、地域の自主的な保護活動の展開が図られるよう努める。なお、これらの取組については、必要に応じ、本種の生態等に関する専門的な知識を有する者、地元の保護団体等の協力を得て実施するものとする。

5 効果的な事業の推進のための連携の確保

本事業の実施に当たっては、国、関係地方公共団体、本種の生態等に関する専門的な知識を有する者、関係地域の住民等の関係者間の連携の確保を図り、効果的に事業が推進されるよう努める。